

ミャンマー地震災害支援

3月28日にミャンマーのマンドレー近郊でマグニチュード7.7の地震が発生し、甚大な被害となりました。カリタスジャパンでは「ミャンマー地震」緊急募金の受付を行っております。これまでご協力いただきました皆様には心より感謝申し上げます。

ミャンマーの教会は長年に渡るケアの実践を通じて人びとから深い信頼を得て、被災した地域の中心に根差してきました。現地では今も道が寸断されたままであり、高温や雨季の降雨が援助活動をも困難にする中で、教会は避難した人々に食料、生活物資購入用の現金給付を行い、避難所の環境整備、被災住宅の修理、安全な水と衛生状態の確保に取り組んでいます。また、紛争や過去の災害によって何度も避難を余儀なくされ、家族や近しい人を失った悲しみや不安を抱えて暮らす人々に、いのちと心を守るケアやサポートを行っています。

カリタスはミャンマーの地域社会と連帯し、支援の一つひとつが安心をもたらし、希望を取り戻す一助となるよう活動を続けています。



避難の様子と水や緊急物資の配付©Catholic Relief Service

援助実績一覧（2024年10月～2025年3月）

	援助国/地域	援助活動名	援助団体	援助額(円)
国際カリタス緊急支援要請	バングラデシュ	バングラデシュ北東部・南東部の洪水被災者緊急復興支援	カリタスバングラデシュ	1,508,300
	バングラデシュ	コックスバザールにおける強制移住ミャンマー人 (FDMN) とホストコミュニティに対する対応	カリタスバングラデシュ	1,502,200
	ネパール	ネパール洪水・土砂崩れ対応と復旧プロジェクト	カリタスネパール	1,650,000
	エリトリア	エリトリアにおける干ばつレジリエンス構築と食の安全プログラム	CAFOD	1,636,600
	アルメニア	難民と地域社会の社会経済的統合とレジリエンス強化	カリタスアルメニア	1,650,000
	南スーダン	最も脆弱な人々への緊急対応と救命サービス	カリタス南スーダン	1,502,200
ウクライナ緊急人道支援	福岡教区	ウクライナ避難民とその家族への支援事業	グローバルライフサポートセンター	2,376,000
	ウクライナ	ウクライナ戦争被災者への緊急支援と緊急ニーズへの迅速な対応	カリタスウクライナ	7,932,500
	ウクライナ	ウクライナ戦争に対する継続的な支援	カリタスベス・ウクライナ	4,070,000
ガザ人道支援	レバノン	南レバノンにおける紛争の継続による国内避難民と被災者の負担軽減	カリタスレバノン	3,273,200
	パレスチナ	聖地における保健と経済のレジリエンス強化	カリタスエルサレム	16,141,000
国内災害能登地震	新潟教区	令和6年7月25日からの大雨 山形県の被災者支援	JVOAD	5,116,000
	東京教区	カリタスのとサポートセンターの活動への協力としてボラバックでの活動協力事業	カリタス東京	1,056,000
	名古屋教区	令和6年能登半島地震被災地支援 カリタスのとサポートセンター組織強化	名古屋教区	2,691,480
	名古屋教区	令和6年能登半島地震被災地支援(設備・機材)	名古屋教区カリタスのとサポートセンター	230,000
	名古屋教区	2024年9月能登豪雨における町野町支援	震災復興子ども支援	1,500,000
	名古屋教区	臨床美術「みんなアーティスト」ワークショップ	ART Along	170,000
新型コロナ緊急支援	大阪高松教区	依存症者の相談支援の提供及び、回復支援の居場所及び住居(居場所)確保	かえでの会	1,342,073
海外援助(一般)	モーリタニア	モーリタニア刑務所被収容者の尊厳回復プロジェクト	カリタスモーリタニア	4,889,200
	南部アフリカ地域	南部アフリカの移住者と無国籍者対応プロジェクト	カリタスアフリカ	4,759,500
	タンザニア	ヴィタンドゴ プロジェクト	カリタスマワンザ	7,518,500
	バングラデシュ	チッタゴン丘陵地帯における少数民族のための教育プログラム	カリタスバングラデシュ	7,512,184
	キルギス	組織強化支援2025	カリタスキルギスタン	2,109,135
	キルギス	天文学を通じた教育・開発・平和推進プロジェクト	カリタスキルギスタン	2,512,979
	モンゴル	組織運営財政支援	カリタスモンゴル	3,202,220
国内援助(一般)	仙台教区	東日本大震災 福島県南相馬市周辺における被災・避難者・困窮者支援	カリタス南相馬	2,489,700
	東京教区	フードバンダー・子どもだれでも食堂	みんなの居場所はぐ	312,000
	東京教区	公立小中学校における多世代・異文化の居場所 アート小学校/中学校	地球対話ラボ	1,084,000
	大阪高松教区	グループホーム新規開設	リカバライフ	2,000,000
	名古屋教区	障害者100人に聞く「教会の中で合理的配慮アンケート調査」	日本カトリック障害者連絡協議会	1,000,000
カリタスアジア緊急支援要請	スリランカ	スマトラ沖地震20周年記念イベント	カリタスアジア	455,490

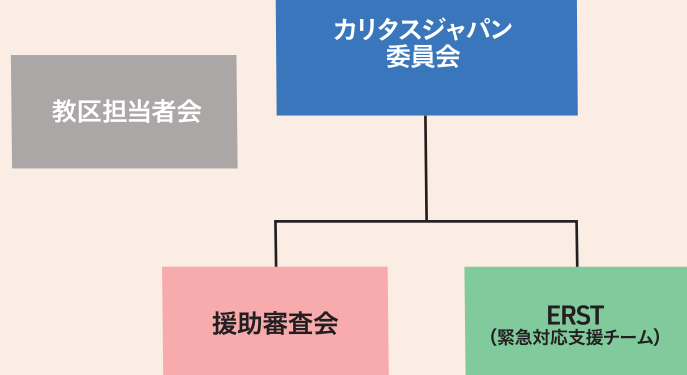
カリタスジャパン新体制

2025年4月より、カリタスジャパンは新体制に移行いたしました。援助部会、啓発部会を廃止し、これまで各部会で行っていた援助活動、啓発活動の審議をカリタスジャパン委員会で行うことになりました。また、ERST(Emergency Response Support Team 緊急対応支援チーム)が復興支援室からカリタスジャパンの中に移管されました。今後はカリタスジャパンERSTの名で国内の自然災害に対して被災教区が行う緊急対応、復興の取組みへの支援を教区の要請に応じて行います。引き続きのご支援、ご協力をお願いいたします。

ERSTとは？

災害対応の経験者数名で構成されたチーム。災害発生時に被災教区からの要請により現地に派遣され、災害対応が軌道に乗るまでの間、教区現地スタッフを現地調査、教区災害対策本部、ボランティアベース、そして活動の立上げ支援、人材派遣などの面からサポートします。

カリタスジャパン
(2025年4月より)



カリタスジャパンの活動にご協力ください

カリタスジャパンでは募金箱(本体、送料無料)を用意しております。

ぬりえ募金箱



厚紙製の組み立て式です。世界の子どものぬりえもできます。これまでよりやや小さくA4用紙サイズになりました。幼稚園、小学校、教会学校などでご利用になりませんか？

街頭募金箱



段ボール製の折り畳み式です。表面の印刷はロゴのみなので、思い思いに、イベントや用途に合わせて自由にデコレーションしたり、正面に透明ポケットを貼って写真を入れることができます。また、カリタスロゴの部分には紐を通すこともできます。チャリティコンサートやバザー、街頭募金、教会の窓口などでご活用いただけます。

発行物(小冊子)

カリタスジャパンが過去に啓発部会として行った「自死」に関する活動をまとめた小冊子のデータなどを公開しています。冊子原本の配布も可能です(在庫限り)。



マンスリーサポーター

毎月募金くださる支援者「マンスリーサポーター」の制度があります。個人だけでなく、家族、仲間、学校、小教区、修道院などグループでの登録も可能です。◎募金額 自由に設定でき、変更も可能です。◎募金方法 「口座自動振替」と「通常払込」の2つがあります。いただいた募金は、カリタスジャパンであらかじめ決定したプロジェクトに活用させていただきます。毎年1回、前年度の支援先プロジェクトの報告をお送りします。(2025年3月にはオンライン報告会も実施しました。)

募金箱、小冊子のお申込み等、各種お問い合わせは本ページ右下の事務局へご連絡ください。

ケアの文化の広がりを願って、さまざまなケアの共同体とその活動について知り、つながっていきたくと考えています。活動の様子、また「他のグループとつながりたい」などの声を事務局へぜひお知らせください。

編集後記

本号では、国際カリタスのキャンペーン「債務を希望に」を紹介しています。排除ゼロ(2017-2019)、Together We(2022-2024)とタイトルは変わっても、カリタスが目指すのは「一人ひとりが大切にされる社会」を「ともに」築くことです。We are Caritsが皆さまにとって、目指す社会に向けた歩みをすすめるきっかけとなりますように。

We are Caritas

No.30(2025年夏号)
通算発行番号No.336

郵便振替番号 00170-5-95979

宗教法人カトリック中央協議会 カリタスジャパン
発行人 成井大介
〒135-8585 東京都江東区潮見2-10-10 日本カトリック会館
TEL:03-5632-4439 FAX:03-5632-4464
Email:info@caritas.jp URL:https://www.caritas.jp

f https://www.facebook.com/caritasjapan



TURN
DEBT
INTO
Hope

No.30

2025年
夏号

通算発行番号No.336

You can read the text of this newsletter with
Google Translation @ <https://www.caritas.jp>

新しさの風を受けて

命が芽吹き、世界がやわらかく動き出したこの春、

私たちは「主の復活」という出来事に、静かに心を寄せる時を過ごしました。

教皇フランシスコの訃報は、全世界を深い悲しみに包み、

私たちもまた、「羊飼いを失った群れ」のような戸惑いと寂しさを抱えることになりました。

その後、新教皇レオ14世が選出され、教会は再び顔を上げ、歩みを新たにしています。

世界中の教会が、同じ悲しみと希望を分かち合った――

その体験を通して、私たちはキリストに結ばれたひとつの体であることを実感したのです。

「ともに泣き、ともに喜ぶ」

この心の交わりは、カリタスの大切な原点であることでしょう。

カリタスジャパンもまた、この4月から新たな体制のもとで歩みを始めました。

しかし体制が変化しても、私たちの使命は変わりません。

「最も小さな人」に寄り添い、「ともに生きる」社会を目指して、

聴き合い、手を取り合い、支え合う――

その使命への応答を、今という時代のただ中で、あらためて生き直していくことが、私たちに託されています。

「新しさ」とは、単なる変化ではなく、謙虚さのうちに、希望に向かって

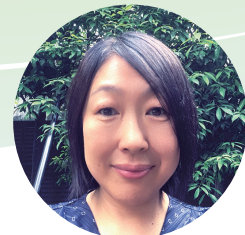
もう一歩踏み出すことなのかもしれません。

聖書はこう語ります。

「見よ、新しいことをわたしは行う。今、それが芽生えている。」(イザヤ書 43章19節)

この言葉は、今を生きる私たちに、神がともに歩まれる新しい道の始まりを告げているのではないのでしょうか。

私たちのささやかな一歩が、希望につながることを信じて、ともに歩み続けてまいりましょう。



シスター 橋本晶子 (カリタスジャパン秘書)

